

2. 心拍再開した院外心肺停止患者の頭部CTのCT吸収値の調査研究

目的

一時的な心停止の後の意識障害（低酸素性脳症）は、患者様の予後や治療方針に大きな影響を与えます。近年、この低酸素性脳症に対する治療として脳低温治療が推奨され、広く行われるようになりましたが、その適応についてはまだ明らかにされていません。

過去のいくつかの小規模な研究では、心臓の動きが戻った直後の頭のCT検査のCT吸収値（画像の色の濃さ）が予後と関連する可能性を示唆しています。また、本邦における多施設大規模研究では、心臓の動きが戻るまでの時間が短いほど脳低温治療が有効であることが報告されています。

これまで、当院に搬送された心臓の動きが戻った心停止患者様で、頭部CTが撮影された方の病院前情報やその後の治療や予後を調査し、その関係性を明らかにします。

内容

2007年～2012年に当院に来院された心停止患者様のうち、心臓の動きが戻り、その後頭部CTが撮影された方を対象とし、病院前情報（目撃の有無、近くにいる人の胸骨圧迫などの蘇生の有無、発見時刻、救急隊接触時刻、初期心電図、病院到着時刻、心拍再開時刻、心停止の原因）、頭部CTのCT吸収値、心臓が戻った後の治療、機能的予後、生命予後を調査し、これらの関係性について検証します。

研究責任者

救命救急科 原田正公